

北海道山岳連盟令和5年度総会

5月14日 札幌エルプラザで開催

令和5年度北海道山岳連盟総会は、5月14日(日)に札幌市エルプラザで開催された。会議は代議員26名のうち出席14名、Zoom参加1名、委任状提出11名、計26名で総会は成立、議長には十勝山岳連盟荒堀代議員を選任した。

会議の冒頭挨拶で石井会長は、昨年度総会で会長に就任してから1年が経過、その間の創立70周年記念行事など各種事業における会員の理解と協力を謝意を表した。

第1号議案「令和4年度を振り返って」では、明田理事長がJMSCA令和4年度全国理事長会議について報告し、道岳連においては3年振りに総会理事会が集合開催、全道交流登山会、各委員会事業も多くの岳人が集い粛々と実行されたことを報告した。

第2号議案「令和4年度事業報告」第3号議案「令和4年度収支決算報告」は副理事長、各委員長、事務局から報告がされ、質疑応答を経て提案どおり承認された。

第4号議案「令和5年度に向けて」では、運営重点事項として加盟団体との接点をどう持つか、財政の健全化、道岳連カレンダー製作委員会の発足、道内山岳団体との協働活動などが上げられた。

第5号議案「令和5年度活動方針及び事業計画」、第6号議案「令和5年度会計予算」、第7号議案「備品台帳報告」は提案通り承認。第8号議案「退会申請」は、下川クライミングクラブ、釧路山岳連盟の退会が承認された。第9号議案「各種議題」は、70周年記念行事会計報告、赤岩のトイレ設置に関する署名が1346筆ほど集まり4/26後志総合振興局に提出、当面は応急的に清潔感を持ったトイレに補修を行うと回答を得た旨が報告された。



総会会場

行事・各委員会事業報告

登山総合研修会 4/8-9 ネイパル砂川ほか

令和5(2023)4月8日(土)-9日(日)の1泊2日の日程でネイパル砂川等において開催しました。参加は24名でした。

初日は道岳連海外登山・エベレスト街道トレッキング&カラパタル(5545m)登頂について、西嶋氏からプロジェクターを利用した動画付きの報告がありました。報告終了後、参加者から質問等があり、「興味深い話が聞けました。3週間にわたる登山お疲れ様でした。といったねぎらいの言葉がありました。

海外登山の報告後、今年の冬山遭難についての報告や日山協山岳保険、ココヘリなどについて意見交換をしました。

2日目の実技研修は、留萌ポロシリ山(標高730m)登山で山スキー班6人、スノーシュー班9人で登山口の樽真布部歳ダム事務所付近へ移動し、1時間少しの林道歩きを終えた後、登頂開始。雪解けが例年に比べ早く、雪が少なく対岸へ渡渉するには危険ということで標高約290m付近で引き返し獲得標高差は310m。当日の天気予報の降雨確率は30%でしたが、登山口に戻ったら「ポツリ、ポツリ」と降ってきて、現地で解散しました。

スポーツライミング班は会長ほか2名で美唄市体育センターへ出向き、密度の濃い研修を終え、帰宅しました。



室内講習会



留萌ポロシリ山への林道

山岳スキー指導員研修会 12/17-18 ほろたちスキー場他

日時：令和4年12月17-18日

場所：ほろたちスキー場及び南浅羽山

参加者：21名

スタッフ：西嶋 塚本 小川 明田

昨年度は開催1週間前にコロナ感染者拡大により宿が閉鎖となり、研修会は中止となりました。

今回は昨年以上の参加者があり、数年ぶりの研修会に多くの会員の期待を感じました。

研修会は1日目にスキー場で基礎練習、2日目に山中で深雪滑走訓練及び雪崩対策の講習。近年降雪が遅く以前はニセコで開催していましたが、雪が少なく苦労しましたので今回は北に行くともう少し雪が多いと期待し幌加内に決めました。

しかし、開催前にスキー場はオープンせず、何度もスキー場に問合せでヤキモキしましたが2日



やや重めのパウダー滑走

前に当日からオープンの情報を得て無事開催に漕ぎ着けました。ここ数年全道のスキー場オープンが遅れる傾向にあり、来年度は1月の開催を検討します。

初日の研修はスキー場で圧雪と未圧雪があり、また斜度もちょうど良く研修に適していました。予定していた坊主山ですが、数年前までは廃棄物最終処分場の脇に通路があり、そこを広く開けてあり自由に停めていました。また、除雪車のオペレーターからもそこに駐車してもよいと言われたのです。去年は駐車禁止の看板があったのか記憶にありません。日曜日ですし産廃処分場は稼働していません。また、無人なので駐車しましたが、今回は現地に着いてガートが設置してあり停められない事を知りました。下調べが悪く皆様にご迷惑をおかけしました。

急遽山を変更、南浅羽山は標高が低く難しい地形ではないが雪が降り視界が悪くなってきたので途中撤退、無線で各班と連絡をとりスムーズな行動がとれました。最近ではあまり使わないが携帯より使い勝手が良い。下りは深い雪と密林に初心者は苦労していました。

今回はまだコロナで中止にはなりませんでしたが、大人数の宴会はできず残念でした。皆様4箇所に分散し静かに飲んで戴き、協力ありがとうございました。来年は全員で宴会をできることを期待します。

(スキー運営委員長 西 嶋)

受講者感想

ロビニア山岳会 松下 陽子

コロナ禍で2年以上自粛をしていましたが、北海道のみ第8波(?) ワクチンも5回終了し、自分の中で何かが弾け、自粛からウイズコロナへ方向転換(笑)

昨年から再燃しているスキー熱と今回の研修がベストマッチ。ワクワクしながら研修に参加させて頂きました。

1日目のスキー場では基礎、座学ではスキー装備・雪崩に遭わないための知識を受講し知識の再確認。2日目は南浅羽山でBC。ビーコンチェックを済ませ初級・中級・上級班に分かれて頂上を目指します。雪質は予想通りのサラサラパウダー。しかし積雪量は膝下、しかも細尾根、密林。普段こんな状況だったら帰りはオールボーゲン、ブルドーザ太ももパンパン、しかも細尾根！絶対帰れない！そう思っただけで心が萎えています。今回はなぜかそんな気持ちもいつもの半分くらいでした。各班リーダーがトランシーバーで状況報告・確認を行いながら進みますが、天候不良にて登頂は諦め下山の準備。シールをはがして下山の準備をしますが、ビンディングが付けられず、すったもんだ。ちょっとしたアクシデントはありましたが、班の全員が準備をすませ滑走開始。自分は予想通りボーゲン大会(笑)さらさらパウダーを思い切り滑りたかったですが無理でした(シクシク…)最後の最後で転んでしまい、起き上がるのに難儀しましたが楽しい一日でした。

スキーの滑りがこれまでの嫌々条件と一緒に何が違うのか、終了後考えてみました。諸先輩と久しぶりの談笑。研修に参加されている方たちも気さくな方たちばかりで皆楽しそうに滑っていて転んでも笑顔、スキーを楽しんでいる姿が素敵でした。そんな楽しい仲間と一緒にいることが苦しいことを半分にしてくれたんじゃないかと思いました。みんなの目標が一緒だったから？仲間っていいな！そんな感情が苦を楽にしてくれたんだと思います。やっぱり山っていいですね！

高齢者とは思えぬ華麗な滑りで駆け抜けていったO氏に少しでも近づけるよう、楽しい岳友とともに安全にBCを楽しみたいと思います。未熟な生徒に親切にご指導をいただきましてありがとうございました。また2日目の山の変更にあたっては、臨機応変な対応に感激。懐の深さを感じました。担当者の皆様ありがとうございました。

受講者感想

札幌山の会 吉岡 雄一

コロナ対策に細心の注意を払われ、約30名で大々的に開催された。担当された役員やスタッフの皆さまに心より感謝いたします。

私自身は初めてのスキー研修会に加えて、ほろたちスキー場も初訪問だった。前週までの札幌近郊スキー場は藪や石が出ていたため、幌加内の積雪量に驚かされた。

研修は二日間とも、塚本圭一指導員より懇切丁寧に指導を頂いた。「ベーシックテクニック」では下肢三関節（腰、膝、足首）の屈曲意識したポジションや、荷重・各付け・回旋運動を確認しながら何度もオフピステ滑走の練習を行った。宿泊所での座学研修では山スキー装備や、雪崩に遭わないための知識を学んだ。

翌日は南浅羽山にて「初心者冬山スキーの実践」「深雪滑走技術の実践」研修が行われた。シール登高やキックターン、ラッセルを実践しながら学んだ。滑走可能な斜面は多くはなかったが、降雪量の割に気温が高く重めのパウダーであった。

2日間に亘り同じ班の他山岳会のメンバーとは、いろいろと有意義な情報交換ができた。次回は参加者全員との交流ができる事を楽しみにしている。



深雪と密林

氷壁技術研修会 1/7-8 層雲峡大函周辺

日時：令和5年1月7日(土)-8日(日) 層雲峡大函手前駐車帯集合

場所：7日 大函周辺(NAKA 滝、尾滝、パラグフォール) 8日: 錦糸の滝

参加者：15名(千歳山岳会 3名、斜里山岳会 2名、登別山岳会 1名、札幌山の会 2名
北海岳友会 1名、音更山の会 4名、個人会員 2名)

スタッフ：5名(明田、下山、石井、出島、M岸)

概要：本年度の氷壁技術研修会は、コロナ感染の第8波が落ち着き始めたので、予定どおり1泊2日で実施しました。

初日は風も無く、陽に当たり暖かく研修日和でした。皆さん時間前に集合でき、駐車帯は車で一杯になりました。駐車帯の車の置き方について、除雪されている開発局の方から「石北峠側に駐車して」との情報があり、縦列駐車させて頂いた。

今年は覆道上の滝を予定していたので、講師陣が先行して尾滝、NAKA滝にトップロープを張って研修場所を確保しておきました。

尾滝で装備や登り方、V字スレッドの作り方等の研修を行い、参加者に順番に滝を登ってもらいました。パラグフォールにもトップロープを張り、傾斜が異なる三つの滝を交代にビレイし合い、声を掛け合いながら登ってもらいました。

宿は「リゾートペンション山の上」で、道内各地にある氷瀑を紹介して机上講習としました。講習終了後コロナ禍のため懇親会は中止して部屋ごとで夕食、「黒岳の湯」に入り就寝しました。

翌日はマイナス 19 度まで冷え込みましたが、風は無く良い一日となりました。「錦糸の滝」やや左中央に 60m ロープ 1 本で登るルート、右側のやや垂直部分に 40m ロープでトップロープを張り、参加者に挑戦したいところを登ってもらいました。中央ルートを登った方は、セカンドの確保、懸垂下降を研修してもらいました。

毎回、下山副会長兼海外登山委員長が美味しい甘酒を用意してくれて、冷えた体を暖める事が出来ました。ありがとうございました。

(担当講師 : 石井 昭彦)



錦糸の滝氷瀑と参加者

受講者感想

札幌山の会 小嶋 一

2023 年 1 月 7 日～ 8 日に層雲峡での氷瀑技術研修会に参加しました。

初日は大函駐車場からツボ足で NAKA 滝・尾滝・パラグーへ。すでに講師の方が NAKA 滝、尾滝にトップロープを張っていただいていたので、速やかに研修が開始されました。

尾滝は崖に垂れ下がるような太いつららですが、なだらかな面もありアップにはちょうど良い難易度と思いました。氷壁の裏側では V 字スレッドの講習も行われており、賑やかな雰囲気の中で楽しい一本目でした。

NAKA 滝に移動して他の方のクライミングを見学。尾滝と比べバーチカルな部分が多く、少し難易度は高そうですがそれほど長くない滝なので登れそうだなと見ていました。柱状ではありますが、窪んだ面もあるため両足がしっかりと蹴り込めるルートがありました。やはりトップロープの安心感があり、ムーブをしっかりと確認しながらリードするならどこでスクリーを打つか考えながら登りに集中できました。

パラグーは 2 週間前の年末に登った際には中間部までしかリードができず苦勞した滝ですが、本日はトップロープが上まで伸ばしてあり念願の上部に取り付けました。下部はハングするシャンデリア形状もあり、出だしからやや強度の強いムーブが必要ですが、大きなテラスにもなっているのでしっかりレストでき上部へ望めます。上部も左右に窪みのある面があるため、基本通り登れば

強度は高いバーチカルでしたが対応できました。テンションをかけずにトップアウトしたかったのですが、思った以上にアックスを握り込んでしまいパンク気味となったためテンションを掛けてしまいました。悔しかったです。

尾滝のベースキャンプでは甘酒を振る舞っていただき、大変体が温まりました。ありがたかったです。

夜は宿舎で石井会長によるアイスクライミング講習でした。様々なアイスクライミングの写真を交えて経験を伝えていただき勉強になりました。実体験に基づいた貴重なお話でした。

2日目は錦糸の滝へ。おおむねトレースは良かったのですが、時々踏み抜く場所があるのでスノーシューで移動しました。錦糸の滝には1月3日に所属する山岳会で来たばかりでしたが、その時は1ピッチ目までしか取り付けませんでした。今回は石井会長が2ピッチ目までロープを伸ばしてくださったので、ダイナミックな50mの連続クライミングが体験できました。前日に比べ10度あまり気温が低かったため、登りながら手がかじかみすぎて動かせなくなるという経験ができました。アックステンションをかけてインナーグローブ越に息で温めないという回復できず難渋しました。

氷は固くしまっておりアックスがよく効きました。様々な形状が横に広がる滝ですが、事前に狙った面白そうなラインをなんとか登る事ができました。こんな長いルートを一気に登った経験はなかったもので、今回のメインイベントだったと思います。登ってからのビレイでも石井会長に様々なポイントを教えて勉強になりました。

その後右側よりバーチカルなラインをトップロープで登りました。一番難しそうなラインを登って見ましたが、やはり登りごたえあり楽しめました。

3年前から始めたアイスクライミングですが、3年前に初めてこの氷壁研修会に参加した際は、上まで登れる自信がなく、錦糸の滝には挑戦もできませんでした。少しずつですがアイスクライミングの経験値を増やすことで今回の研修会では成長を実感できました。

アイスクライミングは特に安全なトップロープでの練習環境確保が難しい領域で、私の所属山岳会でもなかなかアイスクライミングの山行は作れません。エキスパートの意見ではアイスクライミングでリードができるようになるためには100ピッチ程度のトップロープかフォロワーでの経験をしたほうが良いということでした。現在の境遇ではそこまでの経験値を増やす場面がなかなか得られない中で、このような研修会を企画実施していただいた北海道山岳連盟の皆様感謝いたします。この研修会で経験値を増やすことで今後所属山岳会ではリードする機会もできるでしょうから、アイスクライミングの普及に貢献できるようになりたいと思いました。



V字スレッド講習の様子

受講者感想

音更山の会 臼井 順子

道岳連主催の氷瀑技術研修会に今回初めて参加しました。アイスクライミングはシーズン中に1～2回と、若干の経験はあるものの、冗談なのか本気なのか「氷壁に必要なものはメンタル」が恒例でした。ですが、正しい知識や技術を習得したいと一人密かに思っていました。

1日目 十勝音更町午前6時。マイナス13度の中、極寒の層雲峡を覚悟して出発。あわてて準備

したためウェアリングのミスに気付き、更に追加で忘れ物はしてないか、登れるだろうか不安だらけの道中となりました。

そんな不安をよそに、幸いにして天候に恵まれ1月とは思えない程の快晴。講師陣やスタッフのお陰で尾滝、NAKA滝、パラグフォールと3本の滝を体験させて頂きとても有意義な一日となりました。

2日目は、錦糸滝。60メートルもの長さで高さはそう経験できるものではなく、皆さんからの励ましやアドバイスで登り切ることができました。

2日間の研修を通して、どう対処したら良いか困っていたこと、用具のお手入れ方法、便利グッズ、道内の滝について等沢山の情報を伺うことができました。

氷壁技術を親切丁寧に学べる研修会は、私にとって楽しく貴重な機会となりました。講師の石井会長をはじめ、研修を企画運営してくださったスタッフの皆様に感謝申し上げます。

最後に下山さんが作ってくださった飲む点滴甘酒は本当に美味しく、冷えた身体に生姜スパイスがよく効きました。

来シーズンも技術向上のため、是非また参加したいと思っています。ありがとうございました。

山岳スキー(氷雪)技術研修会

1/21-22 三段山

1. 日程 2023年1月21(土)-22日(日)
2. 会場 三段山
3. 参加者 受講生 5名 スタッフ3名(滝澤 西嶋 小川) 合計8名

低気圧が日本海を北上し暴風暴雪予報の中を白銀荘へ向った。札幌は穏やかな天気、江別辺りで日が出る前の朝焼けが美しい。遠くの山もくっきり、荒れる気配はない。でも大雪山は侮れない。

定刻通りに皆集合、こんな予報でも開催するのかと心配しながら研修が始まった。予報では昼から荒れそうなので、午前中に済ませてしまおうと入山。二段を上がったところでアイゼンに履き替え歩行&ピッケル研修。風は無かったがマイナス18°Cは寒い、歩行中は問題ないが研修で留まると冷えてきて震えるメンバーが出てきて1時間で終了、即急に白銀荘に入り座学の開始。山中で行ったことをTVとスマホを繋いで図解演習がわかりやすい。プロジェクターがなくても簡単にできることにびっくりです。参加者は少なかったが活発な質疑応答で有意義な座学でした。翌日の富良野岳1500m付近は風速20m/S以上の予報で急遽三段山に変更、登りは昨日のトレースを使い下りは何時風が付いても大丈夫な様に樹林帯を滑走して終了。

下山後雪が降り、風が付き丁度よい時間に戻ってきた。今回は予報に振り回されたが、天候に恵まれ有意義な研修会でした。

後で調べて見ますと低気圧は早く通過し、21日は朝から安定した天気でした。



白銀荘広間での座学研修

スキー初心者ですが研修に参加させていただきました。前回の初心者研修でも講師をされていた西嶋さんがみえたので私のレベル含め確認して安心して参加できました。

山スキーはしたいものの、仲間と行くと迷惑をかけてしまい躊躇してしまうので、こういう機会があると有り難いのです。ピッケルはもちろん、アイゼンも使ったことがない中、滝澤先生による講習はとてもわかりやすく、座学でも色々質問できたり皆が持っている実際のピッケルを比べたりそれに合わせたザックへの付け方を比較できたのがとても良かったです。ピッケルの進化とともにザックもそれに対応していたり、使い方がグレードアップされたりしているので、なるべく新しいものを使っていけるといいなと、これからの道具を揃えるのに参考になりました。



ふかふか雪の斜面に行く

また、普段使われているウェアの重ね着も実際に見せてもらい初めての山スキーでは汗冷えして辛かったので自分なりに新調してみましたが、更にどういものが今後必要か参考になりました。

今回天気予報では悪天候の中、1日目はなんとか晴れ間に変わり、2日目はどんよりと冷え込み

両日風が強く講習はとても寒いものでした。そこで教わった「腕をぐるぐるまわし遠心力で血を巡らせる」というのがとても効きました。また、トイレに生きたくなるのがいやで水分補給を控えめにしていました。血を巡らせ手先、足先を冷やさないた

めにも水分補給はちゃんとした方がいいというのも知らなかったので、細かなアドバイスを要所要所聞けたのも良かったです。

今回少人数ということもあり、山岳会の先輩方と宿でも楽しく過ごせたり話している中で明日これをやろう！とプチ雪崩講習もリーダーを中心に体験させて頂きました。雪の結晶の形で雪崩の起きやすい雪質を見るというのも驚きでした。

2日目はふかふかの雪の中、下手ながらも楽しく滑れました。皆様2日間本当にありがとうございました。

山岳スキー検定会

3/4-5 栗山スキー場跡地

日時：令和5年3月4日・5日

場所：栗山スキー場跡地

参加者：5名

スタッフ：西嶋 塚本 小川 川崎

当初の予定は2月の初旬に日勝峠付近で検定会を行う予定でしたが、道岳連普及委員会の冬山講習と日程が重なり、3月4・5日に変更し栗山スキー場跡地で開催しました。この変更は良い方向に向ったのか悪い方向に向ったのか。山岳スキー運営委員は日程が空いたので普及委員会の冬山講習会の応援に駆り出されました。

その交流会で十勝から参加された方に日勝峠付近の様子を聞きました。コロナが落ち着き始めた為か山に入る方が多く成り駐車場は8:00には満車に成ることが見られるとの事です。個人グループで車数台ならば隅に置く成り空く迄待っても良し、何とか成りますが検定会にそのようなリスク

は避けなければなりません。そこで場所変更を行いましたので駐車場問題は回避できました。

しかし、山岳スキー検定会ではパウダー斜面での滑りを見て実技試験を行う事に成って居りますので新たな問題が発生しました。検定会の直前には降雪が無く斜面はスキーのゲレンデ状態でした。

それでも我々検定員は多くのスキーヤーを見て居ますので深雪が無くても滑りを見ますと深雪斜面ならばどの位の滑りに成るか予想が付きまます。実施試験の当日は検定員の事前の打ち合せによりスムーズに行われました。

(令和5年3月22日 担当 西嶋)



パワフルレディ活動報告

3/26 浜益御殿

日 時 2023年3月26日 日曜日

場 所 浜益御殿

参加者 スキー2名・スノーシュー3名
スタッフ2名 計7名

7:30 予定より早く幌神社近くの渡辺商店に参加者全員集合する。

8:10 高度54mの地点に車を置きスキー・スノーシューにて出発、天気は曇り。15時半ごろより雨予報が出ているため、活動時のタイムリミットを登り12:30までと取り決めを行い登山開始。風はややあり肌寒く感じる気温だが、林道の樹林帯を楽しく会話をしながら進む。10:30 長い林道歩きも終わりようやくオオサカ山に到着し、いよいよ登山開始。増毛方向の春山は林道歩きが長いのが難点、しかし、この林道を歩くことで我々を普段見えない山の奥、最高の景色に導いてくれる。やっぱり春の増毛方面は最高！やめられませんね。



林道を経てオオサカ山へ

11:30 先行班と後行班の2班に分かれて歩き出す。

12:30 先行班960mで強風のため山頂断念し下山開始、825mにいる後行班と合流し一緒に林道を下山する。山スキー班はザラメの快適な雪質に楽しみながらの下山、スノーシュー班はおしゃべりに花を咲かせながらの楽しい下山でした。

15:30 山行終了、山スキー組は17000歩、スノーシュー組は22000歩をたたき出していました。皆さんよく歩きました。

日頃の行いがいいのか、解散した車での移動を開始すると雨がポチポチ、みな濡れることなく、すみません。

冬季遭難対策研修会 12/10-11 大雪青少年交流の家

令和4年12月10日～11日にかけて遭難対策研修会を大雪青少年交流の家において実施いたしました。参加者は一般登山愛好者1名、道岳連会員10名とスタッフ合せて16名となりました。

初日午後の前半は、野外において本宮さん、出島さんが中心となりアバランチトランシーバーの操作と捜索法について研修を行いました。初めての参加者もあり、捜索の場面でSENDからSEARCHの切り替え指示に、電波発信状態となっていたり、別班の電波を拾ったりしてしまいましたが、慣れてくると50m程離れた地点から埋没地点まで5分以内に探せるようになりました。続いて複数の埋没地点についても捜索を行い短い時間でしたが感覚はつかんでもらえたと思います。

3時半から遭難事故の実態と雪崩遭難の死亡と生還の詳細、雪崩の予測と回避、弱層テスト、生存曲線やセルフレスキューの意義、ファーストエイド保温と加温、救助要請まで学習しました。

2部は仲井さんが中心となりロープワーク研修、キンクがないフィギュアエイトノットのつくり方を全員で実施、ピッケル、土嚢などを利用した雪上アンカーの取り方、引き上げ2分の1や3分の1システムについて、オートブロックなど翌日の予備研修を進めました。

食後は、為野さんの近年多くなったヒグマの被害について、「ヒグマの行動と対応」と題し問題形式で出題。門崎、増田、柿崎氏の著書を参考に学習。被害統計から山菜採りや狩猟の被害に比べ登山者の熊事故は少なく、ヒグマは好んで人間を襲うことがないと見られる。ヒグマのえさ場との重複や狩猟の逆襲にあう事故がほとんどで、鈴や声出して前もって知らせることで近寄ることは稀



SNDで電波が出ていることの確認



ヒグマの生態と対応について

である。今までの経験から突然の遭遇でも攻撃されない限り刺激を与えず離れることが肝要です。

2日目天候は小雪でしたが、広場端の法面を使つての研修を行いました。30～40cmの積雪でしたが降り積もった雪を集めピッケル、麻袋、スノーバーを埋め込み踏固めました。これが意外と頼りになるアンカーとなった。

さらに確実性を高めるため8mmロープで三つのアンカーから流動分散により支点をつくり、2班でそれぞれ2分の1、3分の1のシステムをつくり人の引き上げを行いました。

続いて、カラビナの摩擦を軽減するためプーリーを使用すると引き下げ者の人数が少なくとも楽に引き上げられるようになりました。冬の山行で雪庇の踏み外しや谷から引き上げる際に有効な技術として覚えていただきたいと思います。

最後に研修の講評と閉会式を行い12時過ぎには解散となりました。

(遭難対策委員長 齋藤 邦明)

冬山講習会 Part 1 2/11-12 イワオヌプリ

2月11日(土) 天気 晴れ後雪

10:30 集合 参加者 19名+スタッフ 4名

1班 スキー 2班 スキー 3班 スノーシューに分かれ

イワオヌプリ周辺で研修会(アバランチ
トランシーバー・ツェルト)を実施

1班は研修後五色温泉周辺の斜面のスキー滑走を行う

16:30 五色温泉別館にて。机上講習
(雪崩、地図読み)実施

2月12日(日)曇りのち「雪

三国内登山の予定であったが、雨予報のため急遽チセヌプリ登山に変更する

8:00 パノラマライン経由で3班に分かれ
チセヌプリ登山開始

10:30 1030m地点にてガスが濃くなり視
界不良のため下山開始

12:00 下山 (スタッフ 加藤 陽子)



ツェルト設置訓練実施

冬山講習会 Part 2 3/18-19 小喜茂別山・ニトヌプリ

日 時 令和5年3月18日(土)-19日(日)

場 所 小喜茂別山・ニトヌプリ

参加者 参加者 6名

スタッフ 西嶋 加藤

検定会に続き日高方面の講習会が駐車場問題で開催地の変更を余儀なくされました。直前の変更にも関わらず、幸い参加者の理解と宿がニセコに取れ、何とか開催できました。

初日は皆様時間通り集合し小喜茂別岳に向った。まだ3月なのにすっかり春の装い、全員がアウターを脱いでの登りでも急斜面でまだ冷えた斜面は溶けきらず固い所があり、難儀する参加者がありました。明日はもっと急で長い斜面が待っている、明日は本日よりもっと暖くなる事を祈るのみ、後半からは日が陰り少し寒くなったが無事初日は終了。

夜に座学でコンパスの使い方を行いました。今回の参加者で必要なのは二人のみ。個人レッスン並みの講習初めは使い方を説明し、後半は明日のルートを確認しながら地図に進む角度を記入し終了。

二日目は昨日心配しました本日の最大の難所が中間地点に待っている。ゆっくり歩き時間稼ぎをし、そこに達するまでに気温が上がり雪が緩む事を願いながら進む。途中で何度か行った座学の現地実施訓練をしながら歩くと納得して貰い二日間に渡る座学・実施訓練は上手くいきました。

さて本日の最大難所の難所 33°(地図の測定)初めは柔らかな雪が登るにつれ固くなり、踏ん張りながらやっと上がった。

しかし慣れない参加者が何度か滑り落ちそうになりながらも皆に助けられながら何とか登り切った。そこには晴天に浮かび上がる最高の眺望があった。風が強く写真を撮り早々に下山、車を回収し終了となりました。

令和5年3月22日 西嶋



晴天のニトヌプリ山頂



今後の道岳連各種事業予定

登攀研修会（指導委員会）
令和5年6月25日(日) 小樽赤岩

アルパインクライミング・レベルアップ研修会（指導委員会）
令和5年7月～令和6年5月 ※申込み締切り 6月30日

夏山講習会 Part2（普及委員会）
令和5年7月1(土)～2日(日) 大雪山赤岳周辺

沢・登攀研修（指導委員会）
令和5年7月8日(日)～9日(土) 白老川水系・登別市ふおれすと鉢山

美瑛富士携帯トイレブース点検（自然保護委員会）
令和5年7月29日(土)～30日(日) 美瑛富士避難小屋・白金野営場

国民体育大会北海道予選大会（競技委員会）
令和5年7月22日(土)～23日(日) 美瑛市体育センター

旭岳親子登山会（ジュニア委員会）
令和5年8月11日(祝) 大雪山旭岳

※詳細は道岳連 HP 又は加盟団体配布の開催要項を確認してください。

道岳連だより 北海道山岳連盟広報 No.97 令和5年6月10日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市厚別区厚別北1条4丁目1-4-206

発行責任者 石井 昭彦 編集担当(総務) 内藤 美佐雄

